



生命をつかさどる元素・文明を支える元素として「鉄」がなければ人類は生きてゆけない

溶鉄の輝き「閃光」と鉄の黒光り「肌光」

その輝きの中に燦然と輝く人類の知恵の数々

《 縄文の心 》

世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」

そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に



<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

ほかの動物に狩猟・採取の生活を見ると「乳離れするまでは 面倒を見るにしる、狩猟・採取の移動の中で 群れについて行けなくなると置いてきぼり」それが狩猟・採取の生活の厳しさ。

そんな縄文の狩猟・採取の時代に 幼くして小児麻痺の少女が成年期を経て、一生 多くの人達に見守られ、縄文の村で暮らしていた。

また、縄文の村猟犬として飼われていた犬たちが、家族同様 大切に暮ら していた証拠もある。

今こそ 「日本人のルーツ 心優しき縄文人」 の心を今取り戻そう。



グローバル・高度情報化社会と日本の成長繁栄が声高に叫ばれる現代社会のほころびが見えだし、気候温暖化の激変・環境変化・格差と貧困の急激な進行そして戦さなど数々の災いが日常的に脅威として降りかかる。

世界が今 新しいスタンダードを探し求めている。

地球温暖化はもう抜き差しならぬ状況になり、 極端な格差社会が新興国のみならず、先進国でも軒並み 貧困差別と争いを引き起こしている。 この激変の時代の真ただ中で、ただひたすら、東京一極集中を追い続ける日本。

さらに 抜き差しならぬ状況の中 老齢化成熟社会の厳しさが追い打ちをかけ、「一億総活躍社会」の掛け声にも 首をかしげたくなる未来不安の世相が蔓延する。

「昔はよかった」と振り返っても なんの役にも立たないが、他人事だった現実が我が身にふりかかる日々にハッと気が付く。これが人類が追い続ける未来繁栄の道なのだろうか??? 出口を見出す転換をしないと人類・地球滅亡への道の縁にいる。今一度立ち止まってグローバル・高度情報化社会の現実を直視せねば・・・。

なにか 満たされぬ閉塞感から脱する新しい道を 今踏み出さねば・・・

「どう 生きればよいのか」 あれこれ思いめぐらす中での 新しい年の始まりです。

人間の人間たる所以は「他人を思いやる心」。人は心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった。

それを「愛」という人もいる。今 厳しい競争社会の中で それが大きく揺らぎ、忘れ去られてきた。

「甘っちょろい」との声もあるが、「他人を思いやる心」なくして 人類は生き延びてこれなかった現実を先端の科学そして歴史が証明している。

現代社会が忘れたものを 今の現代社会に取り戻すことが、閉塞した現実を突破する糸口になるだろう。

神戸には 手にしていたすべてが一瞬にして消え去り、立ちすくんで途方に暮れた中で 神戸の街が一つの輪になって 立ち向かった21年前の神戸淡路大震災の記憶がある。

グローバル・効率化と激烈な競争の中で、現代人・社会が忘れ去ってしまったものを思い起こさせてくれたルミナリエの光の環

また、今 世界が「日本の縄文」に着目し、現代社会を見直そうとしている。かつて 世界に類のない 「1万年もの長きに渡る平和で豊かな永続社会築いた日本の縄文」

そんな「日本の縄文」にも 現代を見直す知恵がある。



◆ 競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは「縄文かえり・心の優しさ」では・・・  
朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

2014.5.6 朝日新聞「天声人語」より

**天声人語**

おもしろい実験をネットで見たり。2本の高速道路が合流する場合、どうすればすんなりと車線変更できるかを探っている。「渋滞学」の生みの親として知られる東大の西成浩裕教授が説明役だ▼車の代わりに人間が二つの道を歩く。合流する直前まで互いが見えない状況で、すぐに車線変更しようとする、ぶつかりそうになったり、詰まったりする。危ない。そこで合流地点から一定の距離を車線変更禁止とする。するとその間、互いを見合い、譲り合いながら車線を変更されるようになる▼われ先に走るよりは、まわりとコミュニケーションを取りながら運転するほうが、結果的に速くなる。車間距離を十分に取ることも、とともに、道路の流れをよくするための知恵である▼この実験は「利他的精神実験」と銘打たれている。西成教授が強調するのは、他のドライバーへの思いやりだ。目先のプラスばかりを追わず、長期的視野を持つ。情けは人のためならず。損して得とれ、とも。頭ではわかっていても、なかなか実行できないところが凡夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッシュに巻き込まれた方も多いに違いない。きょうも混雑が続くだろう。渋滞のストレスを長時間受け続けるつらさはいかばかりか。どこにも出かけずじっとしていた身には、お気持ちを拝察することしかできない▼大型連休が終わる。朝の駅の雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立って、ともすると前に出たがるのを自戒することに。急がば回れ、だ。

2014・5・6

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。 現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。 激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の 現実をみつめ直す必要がある。

ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

2014.5.6. from Kobe Mutsu Nakanishi



今こそ「日本人のルーツ 心優しき縄文人」の心を今取り戻そう。  
 心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった人類。その繁栄の道はただ一つ「他人を思いやる心」。  
 人類の歴史の中で 他に類を見ない1万年という長きにわたり、平和な継続社会を築いた「縄文」  
 欲望・競争のスピードの渦から抜け出して 今一歩立ち止まって「他人を思いやる心」を眺めよう。  
 そこから 生まれる新しい価値観を次の世代へ伝えねばと。

**世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」**  
**そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある**  
**北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に**



<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

**縄文がえりの勧め 心優しき縄文の村**

幼くしてポリオにかかった少女が 縄文の村で みんなに守られ ずっと暮らしていた

「景色のいい素晴らしい高台に暮らす心優しき縄文人」「縄文のこころを映すストーンサークル」と 縄文に魅せられて縄文の遺跡を訪ねはじめて、もう10数年になる。

■ **入江・高砂貝塚縄文遺跡**

「狩猟・採取 自分の食糧確保に精一杯であった縄文時代に 4000年前の北海道の縄文の村で 幼くして小児麻痺にかかった少女が 成年期を経て一生みんなに 見守られて その村で暮らしていた。 その痕跡を示す骨が北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む入江貝塚 縄文遺跡で見つかった」と。

北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む海岸の高台にある縄文時代前期から後期(約5000～3500年前)にかけて形成された大規模な集落。



北海道・北東北縄文遺跡群 入江・高砂貝塚遺跡 [http://jomon-net.xsrv.jp/jomon\\_kairou/iseki/irie-takasago.html](http://jomon-net.xsrv.jp/jomon_kairou/iseki/irie-takasago.html)

北の縄文文化を発信する会 | 縄文のこころ <http://jomon-heritage.org/jomonheart/>



年齢70を越え、無理は効かぬし力もなし。  
 でも まだまだ 好奇心は旺盛 元気はある  
 今一度 家族・仲間を頼りに 前向いて元気にと。

右の「三猿」は 「お互い元気に」と義姉が送ってくれた「三猿」なるほど 今年はこれと  
 本年もよろしくお祈いします。

2015.1.1. Mutsu Nakanishi From Kobe

